

## スマート農業連携スタート 地域農業を支える担い手× J A

大津北宮農経済センターは2021年8月5日、地域農業を支える担い手と連携したスマート農業の取り組みをスタート。2018年から全国に先駆けて様々な農作業にドローンを活用してきた田中章吾センター長を軸に、チーム名を「Lake sky otsu」として、賛同を得た担い手2人と共に大きな一歩を踏み出しました。

この日は、大津市の比良山系の麓に位置する田んぼでドローンによるカメムシ類の防除を行い、21畝の防除作業を約3時間で終え、集落の農家は「共同防除では大変苦労したが、楽になってよかった」と喜びました。

これまでは各集落で行われてきた共同防除ですが、高齢化が進み、後継者不足などで重労働への対応が厳しさを増してきました。特に大津市北部は中山間地が多く作業が困難な農地が多いため、同センターはドローンによる農作業受委託で地域農業の維持発展と担い手の所得向上、経営安定に繋げようと、ドローンを導入した担い手にオペレーターとしての参加を提案。担い手から、「導入したドローンを有効活用できる。J Aが窓口となることで、農地の確認や精算事務などの心配がなく、安心して作業ができてありがたい。ぜひ一緒に作業させてほしい」と力強い返答をもらい、「Lake sky otsu」の誕生へと繋がりました。

担い手が所有するドローンは当J Aが所有する機体と同一機種で、T A Cが持続可能な農業を目指すことを目的としてJ Aで販売し、導入を支援しました。

当J Aは、「今後もドローンを活用したスマート農業の可能性をアピールしながら、地域の担い手・生産者と、一番近い存在であるJ Aが手を取り合い、地域農業は地域で守るための取り組みを促進し、受託面積を増やしていきたい」としています。



チーム「Lake sky otsu」結成